

參考資料



2005年1月14日

<調査委託元> 厚生労働省

<調査委託先> 独立行政法人雇用・能力開発機構 職業能力開発総合大学校
株式会社富士通総研

独立行政法人雇用・能力開発機構 職業能力開発総合大学校では、厚生労働省の委託を受けて、大学院等におけるリカレント教育および職業訓練に関するアンケート調査をおこなっております。本調査結果は関係省庁をはじめ関係者に広く配布し、各種施策の立案に資する基礎資料として活用していただくことを予定しております。

本アンケートは大学院・専門職大学院等に送付しており、**大学院・専門職大学院の事務局長もしくは、研究科長**にお答えいただきたく存じます。他に適当な部署がありましたら、お手数ですがその部署の方に回して下さいますようお願い申し上げます。

ご回答いただいた内容につきましては、統計的に処理いたしますので、個々の方々のお名前やお答えいただいた内容が外部に出るようなことはございません。また、本調査結果をご希望の方には、結果の要約を無料で送付いたします。

つきましては、ご多忙の折、誠に恐縮には存じますが、上記の趣旨をご理解の上、本調査にご協力賜りますようお願い申し上げます。

<ご記入上のお願い>

1. ご回答は、**大学院・専門職大学院の事務局長もしくは、研究科長**にお願いいたします。
2. ご記入は、黒・青のボールペン、万年筆または鉛筆でお願いします。
3. 質問の番号順にお答えください。質問によっては、一部の方だけにおたずねするものがありますが、その場合は指示にそってお進みください。
4. ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です）に封入のうえ、**2月4日(金)まで**にご投函ください。
5. ご不明の点がございましたら、下記の担当者までお問い合わせください。

【調査内容についてのお問い合わせ】

株式会社富士通総研
担当：公共コンサルティング事業部 岡本
〒105-0022 東京都港区海岸 1-16-1
ニューピア竹芝サウスタワー11階
電話：03-5401-8396 FAX：03-5401-8439
E-Mail：okamoto@fri.fujitsu.com

【職業能力開発・委託訓練等のお問い合わせ】

職業能力開発総合大学校
能力開発研究センター 開発研究部
担当：伊藤
〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台 4-1-1
電話：042-763-9368

アンケート票

1. 貴校の大学院の教育内容についてお尋ねします

本問以降「大学院」とは大学院、専門職大学院、法科大学院等を指します。

1

- | | | | |
|--------|--------|-------|--------|
| 1 人文科学 | 5 農学 | 9 商船 | 13 その他 |
| 2 社会科学 | 6 医・歯学 | 10 家政 | () |
| 3 理学 | 7 薬学 | 11 教育 | |
| 4 工学 | 8 保健 | 12 芸術 | |

2

- 1 最先端にテーマを置いた内容
- 2 我が国の企業全般が抱える諸問題への指針を提供できるような内容
- 3 学際性に配慮した幅広い視点からの研究・学習が可能な内容
- 4 特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容
- 5 応用・実践問題の研究・学習に重点をおいた内容
- 6 基礎理論の研究・学習に重点をおいた内容
- 7 特定職種の実務に必要な専門的知識・技術を習得できる内容
- 8 幅広い仕事に活用できる知識・技術を習得できる内容
- 9 独創的な発想による問題解決力を養う内容
- 10 知識に基づいた深い洞察力を養う内容
- 11 研究推進能力を身に付ける内容
- 12 その他()

3

	①現在実施	②今後重視
1 CAI(Computer Aided Instruction:コンピュータ支援教育)や e-learning		
2 事例研究・ケーススタディ		
3 グループワーク・ディスカッション		
4 レポート・論文作成指導		
5 個別の教育指導		
6 実務経験のある教員・講師による指導		
7 専門課程実施前の専門知識・基礎知識の復習		
8 講義の補講・復習		
9 実習・演習		
10 その他 ()		

4

- 1 トップ企業と連携した当該企業のケーススタディを主体としたカリキュラム
- 2 特定業種に特化したカリキュラム
- 3 特定業務に特化したカリキュラム
- 4 企業(産学連携機関を含む)等の研究機関におけるフィールドワーク、共同研究、受託研究
- 5 企業や公共機関等と大学院との間で柔軟に行き来ができるインターンシップ制度
- 6 長期間の単位認定を前提とした企業等での実践的なトレーニングによるインターンシップ
- 7 大学院および企業内施設での企業内教育の実施
- 8 企業のキャリアプランとの連動を想定したカリキュラム
- 9 他の教育機関・専門学校等の相互連携
- 10 その他()

アンケート票

2. 貴校の大学院において創出する人材像についてお尋ねします

5

	ほとんど重視しない	あまり重視しない	普通	やや重視	非常に重視
1 コミュニケーション能力					
2 プロジェクト管理能力					
3 リーダーシップ・実行力					
4 プレゼンテーション能力					
5 応用力・柔軟性					
6 粘り強さ・タフさ					
7 基礎学力					
8 専門的知識					
9 論理的思考能力					
10 問題設定・解決能力					
11 独創性					
12 情報分析能力					
13 社会人としての目的意識・意欲					
14 社会人としての礼儀・快活さ					
15 倫理観・責任感					
16 積極性・好奇心					
17 国際性					
18 社会性・協調性					

6

1 18

--	--	--	--

3. キャリア開発・支援についてお尋ねします

7

- 1 現在従事している業務における専門性を高めるため
- 2 社内で他の業務につくために専門的な知識・技能を身に付けるため
- 3 現職に関係なく、その分野に興味があったため
- 4 転職、再就職をするため
- 5 社外での人脈をつくるため
- 6 資格取得のため
- 7 会社で受講を薦められたため
- 8 その他 ()

アンケート票

8

- | | | |
|--------------|---------------|-----------------|
| 1 受講修了者アンケート | 3 キャリアカウンセリング | 5 受講者等の交流会開催、支援 |
| 2 就職・転職支援 | 4 関連コースの受講案内 | 6 その他() |

9

- 1 はい 2 いいえ

10

[]

4. 教育訓練・委託訓練に関してお尋ねします

11

〔教育訓練給付コースとは〕

厚生労働省が労働者の自発的な職業能力の開発及び向上等を支援するために運営している「教育訓練給付制度」の指定を受けた教育訓練コースのこと。一定の要件を満たす雇用保険の被保険者（在職者）又は被保険者であった方（離職者）が、厚生労働大臣の指定する教育訓練コース（教育訓練給付コース）を受講し修了した場合、教育訓練施設に支払った経費の最大40%相当額（上限20万円）がハローワークから支給される。（詳しくは <http://www.kyufu.javada.or.jp/seido/>）

- 1 設置している（→問 12 へ） 2 設置していない（→問 13 へ） 3 わからない（→問 13 へ）

11

12

- 1 全コースの 1 割未満
2 全コースの 1 割以上～3 割未満
3 全コースの 3 割以上～5 割未満
4 全コースの 5 割以上
5 わからない

13

- | | | |
|--------|--------------|----------|
| 1 県工業会 | 4 商工会 | 7 業界団体 |
| 2 専門学校 | 5 他大学 | 8 その他() |
| 3 自治体 | 6 公共職業能力開発施設 | 9 わからない |

アンケート票

以下ご記入をお願いします。

	〒		
	TEL	()	

本調査結果の概要版の送付をご希望されますか。

- 1 希望する 2 希望しない

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

まずはじめに、あなたのことについて伺います。

問1. あなたは社会人として働いた経験(正社員等)がありますか？(当てはまるもの1つに○)

- | |
|-----------------------|
| 1 現在、社会人として働いている |
| 2 社会人として働いたことがある |
| 2 社会人として働いた経験は無い(→終了) |

問2. あなたは大学院で教育を受けた経験がありますか？(当てはまるもの1つに○)

- | |
|-----------------|
| 1 過去に受けたことがある |
| 2 現在、受けている |
| 3 受けたことは無い(→問5) |

ここでは、問2において、大学院での教育を「過去に受けたことがある」または、「現在受けている」と回答された方に伺います。

問3. あなたは大学院に通っている間、就業していましたか(していますか)？(当てはまるもの1つに○)

- | |
|-------------------------------------|
| 1 フルタイムで働いていた(働いている)(→問12) |
| 2 パートタイム、アルバイトなどで働いていた(働いている)(→問12) |
| 3 働いていなかった(働いていない) |

問4. 大学院に通っている間、就業していなかった(していない)のはなぜですか？(当てはまるもの1つに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1 働きたかったが、条件が整わなかったため(→問12) |
| 2 特に働く必要がなかったため |

A.一般社会人

ここでは、リカレント教育（生涯教育）の受講意向について伺います。

問5. あなたが今後、再び教育を受けること(以降リカレント教育)についてどのように思いますか？（当てはまるもの1つに○）

1 教育を受けたい
2 教育を受けることに興味がある
3 特に受けたいとは思わない（→問 30 へ）

問6. あなたが今後、リカレント教育を受けたい、興味がある、と考える理由は次のうちどれですか？

※当てはまる情報を上位3つまでお選びください。

1 現在従事している業務における専門性を高めるため
2 社内で他の業務につくために専門的な知識・技能を身に付けるため
3 現職に関係なく、その分野に興味があったため
4 転職、再就職をするため
5 社外での人脈をつくるため
6 資格取得のため
7 会社で受講を薦められたため
8 その他（ ）

問7. 今後教育を受けるとしたら、どの教育機関で受けたいですか？（当てはまるもの1つに○）

1 大学(学部)
2 大学院
3 短期大学
4 高等専門学校
5 専修学校・専門学校
6 公共職業能力開発施設、民間の教育訓練機関
7 その他（ ）

ここからは、問 7 で選択した教育機関でリカレント教育（生涯教育）を受けることを想定してお答えください。

問8. あなたが、リカレント教育(生涯教育)を受ける場合に想定される課題は次のうちどれですか？

※当てはまるものを全てお選びください。

1 仕事が忙しい
2 家事・育児が忙しい
2 決められた期間内での単位取得が不安・負担
3 通学できる範囲に社会人向けの大学院がない
4 通学に時間がかかる
5 社会人向けのカリキュラムが充実していなかった

6 開講時間帯が早い、遅刻しやすい
7 仕事で授業に出られない場合の対策がない
8 入学時期が限定的である
9 費用負担が大きい
10 学業の前提となる知識や技術の不足
11 会社の理解が得にくい、公表にくい
12 家族等の理解が得にくい
13 その他()

問9. あなたが、教育機関を選ぶ際に重視する点は次のうちどれですか？

※当てはまるものを全てお選びください。

1 カリキュラムが魅力的であること
2 入学時期がフレキシブルなこと
3 短期集中コースが豊富
4 長期分散型のコースが充実していること
5 授業に参加できない場合、費用が一部もしくは全部返却されること
6 授業単位で学費を支払えること
7 教育訓練給付制度が適用されていること
8 教員が魅力的なこと
9 実務経験のある教員が多く、内容が実践的であること
10 体験入学があること
11 通学しやすい場所に学校があること
12 通信教育のカリキュラムが豊富
13 時間帯が自由に選択可能
14 夜間遅い時間帯での開講
15 土日、休日の開講
16 カウンセリングが充実
17 授業料が安い
18 その他()
19 特になし

問10. 現在あなたは転職や再就職を希望していますか？（当てはまるもの1つに○）

1 転職や再就職を希望している
2 転職や再就職は特に希望していない
3 その他()

問11. リカレント教育は、転職や再就職にどのような影響があると思いますか？（当てはまるもの1つに○）

1 有利になる（→問 30）
2 やや有利になる（→問 30）
3 特に関係なし（→問 30）
4 やや不利になる（→問 30）
5 不利になる（→問 30）
6 その他()（→問 30）

B.社会人学生

ここからは、大学院での受講内容を伺います。院了の方は、受講当時の内容、要望、印象などからお答えください。

問12.大学院での履修形態は次のうちどれですか？（当てはまるもの1つに○）

1 正規課程
2 科目等履修生（正規の学生でなくとも、1～複数の科目を受講し、単位を取得できる制度）
3 聴講生
4 エクステンション（生涯学習等に対応した公開講座、資格取得のための課外講座等、大学(院)な以外の学生・社会人に大学を開放する制度）
5 その他()

問13.あなたの大学院での専攻分野は次のうちどれですか？（当てはまるもの1つに○）

1 人文科学
2 社会科学
3 理学
4 工学
5 農学
6 医・歯学
7 薬学
8 保健
9 商船
10 家政
11 教育
12 芸術
13 その他()

問14.あなたが、大学院のカリキュラムとして重視して欲しい内容は次のうちどれですか？（当てはまるもの全てに○）

1 最先端にテーマを置いた内容
2 我が国の企業全般が抱える諸問題への指針を提供できるような内容
3 学際性に配慮した幅広い視点からの研究・学習が可能な内容
4 特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容
5 応用・実践問題の研究・学習に重点をおいた内容
6 基礎理論の研究・学習に重点をおいた内容
7 特定職種の実務に必要な専門的知識・技術を習得できる内容
8 幅広い仕事に活用できる知識・技術を習得できる内容
9 独創的な発想による問題解決力を養う内容
10 知識に基づいた深い洞察力を養う内容
11 研究推進能力を身に付ける内容
12 その他()

問15.大学院で重視して欲しい教育方法は次のうちどれですか？（当てはまるもの全てに○）

※当てはまるものを全てお選びください。

1 CAI(Computer Aided Instruction:コンピュータ支援教育)や e-learning
2 事例研究・ケーススタディ
3 グループワーク・ディスカッション
4 レポート・論文作成指導
5 個別の教育指導
6 実務経験のある教員・講師による指導
7 専門課程実施前の専門知識・基礎知識の復習
8 講義の補講・復習
9 実習・演習
10 その他 ()

問16.大学院において、重視して欲しい取組は次のうちどれですか？

※当てはまるものを全てお選びください。

1 トップ企業と連携した当該企業のケーススタディを主体としたカリキュラム
2 特定業種に特化したカリキュラム
3 特定業務に特化したカリキュラム
4 企業(産学連携機関を含む)等の研究機関におけるフィールドワーク、共同研究、受託研究
5 企業や公共機関等と大学院との間で柔軟に行き来ができるインターンシップ制度
6 長期間の単位認定を前提とした企業等での実践的なトレーニングによるインターンシップ
7 大学院および企業内施設での企業内教育の実施
8 企業のキャリアプランとの連動を想定したカリキュラム
9 他の教育機関・専門学校等の相互連携
10 その他()

問17.大学院での教育と就業を両立させるのに、苦勞する(した)点、課題は次のうちどれですか？

※当てはまるものを全てお選びください。

1 仕事が忙しい
2 家事・育児が忙しい
2 決められた期間内での単位取得が不安・負担
3 通学できる範囲に社会人向けの大学院がない
4 通学に時間がかかる
5 社会人向けのカリキュラムが充実していなかった
6 開講時間帯が早いため、遅刻しやすい
7 仕事で授業に出られない場合の対策がない
8 入学時期が限定的である
9 費用負担が大きい
10 学業の前提となる知識や技術の不足
11 会社の理解が得にくい、公表しづらい
12 家族等の理解が得にくい
13 その他()

問18.仕事をしながら大学院に通学するにあたって、大学に実施してほしいことは次のどれですか？

※当てはまるものを全てお選びください。

1 カリキュラムが魅力的であること
2 入学時期がフレキシブルなこと
3 短期集中コースが豊富
4 長期分散型のコースが充実していること
5 授業に参加できない場合、費用が一部もしくは全部返却されること
6 授業単位で学費を支払えること
7 教育訓練給付制度が適用されていること
8 教員が魅力的なこと
9 実務経験のある教員が多く、内容が実践的であること
10 体験入学があること
11 通学しやすい場所に学校があること
12 通信教育のカリキュラムが豊富
13 時間帯が自由に選択可能
14 夜間遅い時間帯での開講
15 土日、休日の開講
16 カウンセリングが充実
17 授業料が安い
18 その他()
19 特になし

問19.大学院に対し、希望することを具体的にお聞かせください。

※どんな些細なことでも構いませんので、できるだけ詳しくお書きください。

--

問20.あなたが、在学中に会社に希望することは次のうちどれですか？

※当てはまるものを全てお選びください。

1 通学期間を長期有給休暇とする
2 無給で構わないので、長期休暇が取れるようにする
3 授業のある時間帯は、早退を許す、休めるようにするなどフレキシブルな労働時間とする
4 授業料の一部もしくは全部を補助する
5 大学院に通っていることを公言しづらい雰囲気なくす
6 大学院への通学が原因で、評価を下げるなどの不利益がないことを確約する
7 大学院へ通って卒業資格を得たものを評価する仕組みをつくる
8 大学院へ通っていることを人事考課上、評価する仕組みをつくる
9 その他()
10 特になし

問21.会社に対し希望することを具体的にお聞かせください。(自由回答)

※どんな些細なことでも構いませんので、できるだけ詳しくお書きください。

--

問22.大学院での教育を通じて、あなたが身に付けたい能力・知識・資質等についてお聞かせください。

以下の能力・知識・資質等に関する各項目に対して、「ほとんど重視しない」～「非常に重視する」の5段階で評価してください。

	ほとんど重視しない	あまり重視しない	普通	やや重視	非常に重視
1 コミュニケーション能力					
2 プロジェクト管理能力					
3 リーダーシップ・実行力					
4 プレゼンテーション能力					
5 応用力・柔軟性					
6 粘り強さ・タフさ					
7 基礎学力					
8 専門的知識					
9 論理的思考能力					
10 問題設定・解決能力					
11 独創性					
12 情報分析能力					
13 社会人としての目的意識・意欲					
14 社会人としての礼儀・快活さ					
15 倫理観・責任感					
16 積極性・好奇心					
17 国際性					
18 社会性・協調性					

問23.あなたが自分自身に不足していると感じた・感じている資質・能力・知識等を以下の中から4つお選びください。

※僅かに感じた程度でも構いませんので、必ず4項目お選びください。

1 コミュニケーション能力
2 プロジェクト管理能力
3 リーダーシップ・実行力
4 プレゼンテーション能力
5 応用力・柔軟性
6 粘り強さ・タフさ
7 基礎学力
8 専門的知識
9 論理的思考能力
10 問題設定・解決能力
11 独創性
12 情報分析能力
13 社会人としての目的意識・意欲
14 社会人としての礼儀・快活さ
15 倫理観・責任感
16 積極性・好奇心
17 国際性
18 社会性・協調性

問24.あなたが知識・技術を向上させたい分野は、次のうちどれですか？

※当てはまるもの全てをお選びください。

1 人事・労務・人材育成
2 経理・財務
3 営業・マーケティング・販売
4 生産管理
5 法務・労務
6 広報・広告
7 国際業務
8 経営企画
9 商品仕入・販売
10 情報処理技術
11 機械・製造
12 電機・通信
13 土木・建築
14 化学
15 その他()

問25.あなたが大学院で教育を受けた主な目的・動機は次のうちどれですか？

※当てはまる主な目的・動機を上位3つまでお選びください。

1 現在従事している業務における専門性を高めるため
2 社内で他の業務につくために専門的な知識・技能を身に付けるため
3 現職に関係なく、その分野に興味があったため
4 転職、再就職をするため
5 社外での人脈をつくるため
6 資格取得のため
7 会社で受講を薦められたため
8 その他 ()

問26.あなたが大学院で教育を受けたことによって、会社での処遇に変化がありましたか？

※当てはまるものを全てお選びください。

1 希望の部署に配置転換した
2 希望の企業に転職した
3 周囲に良い印象を持たれた
4 昇進・昇級した
5 特に変化なし
6 周囲の人間に良い印象を持たれた
7 希望に反した配置転換があった
8 降格・降級した
9 失業した
10 その他()

問27.あなたは、大学院で受講中もしくは修了後、転職、再就職をしようとした、あるいは、しましたか？（当てはまるもの1つに○）

1 転職、再就職をした
2 転職、再就職を試みたがしなかった
3 転職、再就職はしなかった (→問 29)

問28. 大学院での教育が、あなたの転職や再就職の採用に与えた影響は次のうちどれですか？ (当てはまるもの1つに○)

1 有利になった
2 やや有利になった
3 特に関係なし
4 やや不利になった
5 不利になった
6 その他 ()

問29. 卒業後のキャリア支援に向けて、大学院に実施して欲しいことは次のうちどれですか？

※当てはまるものを全てお選びください。

1 受講修了者アンケート
2 就職・転職支援
3 キャリアカウンセリング
4 関連コースの受講案内
5 受講者等の交流会開催、支援
6 その他()

共通設問

問30.あなたは、「教育訓練給付コース」とはどのようなものであるか知っていますか？（当てはまるもの1つに○）

- | |
|---------|
| 1 知っている |
| 2 知らない |

問31.教育訓練給付コースとは以下のようなものですが、大学院において教育訓練給付コースを受講したいと思いますか？（当てはまるもの1つに○）

【教育訓練給付コース】

厚生労働省が労働者の自発的な職業能力の開発及び向上等を支援するために運営している「教育訓練給付制度」の指定を受けた教育訓練コースのこと。一定の要件を満たす雇用保険の被保険者（在職者）又は被保険者であった方（離職者）が、厚生労働大臣の指定する教育訓練コース（教育訓練給付コース）を受講し修了した場合、教育訓練施設に支払った経費の最大40%相当額（上限20万円）がハローワークから支給される。

- | |
|-----------------|
| 1 受講したい |
| 2 機会があれば、受講したい |
| 3 あまり受講したいと思わない |
| 4 受講したいとは思わない |

ここからは、改めてあなたのことについて伺います。

問32.あなたの性別を教えてください。（当てはまるもの1つに○）

- | |
|------|
| 1 男性 |
| 2 女性 |

問33.あなたの年齢を教えてください。（当てはまるもの1つに○）

才

問34.あなたの居住地域を教えてください。（当てはまるもの1つに○）

- | |
|--------------|
| 1 東京都区内 |
| 2 政令指定都市 |
| 3 政令指定都市以外の市 |
| 4 町・村 |
| 5 その他（ ） |

問35.あなたの最終学歴を教えてください。（当てはまるもの1つに○）

1 高等学校卒
2 専修・各種学校卒
3 高等専門学校卒
4 短期大学卒
5 大学卒
6 大学院了
7 その他

問36.あなたの現在の職業を教えてください。(当てはまるもの1つに○)

1 会社員
2 公務員 (→終了)
3 自営業 (→問 38)
4 学生 (→終了)
5 専業主婦 (→終了)
6 パート・アルバイト (→終了)
7 専門職(弁護士・医師・会計士等) (→問 38)
8 教職 (→終了)
9 無職 (→終了)
10 その他 (→問 38)

問37.あなたの役職を教えてください。(当てはまるもの1つに○)

1 一般社員
2 係長、主任
3 課長、部長
4 役員、経営者
5 派遣社員
6 その他()

問38.あなたの業種を教えてください。(当てはまるもの1つに○)

1 建設業
2 製造業
3 電気、ガス、水道、熱供給業
4 運輸・通信業
5 卸売・小売・飲食店
6 金融・保健業
7 不動産業
8 情報サービス業
9 その他サービス業
10 その他()

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

自由回答

大学院向けアンケート調査の問10、社会人向けアンケート調査の問19、問21の自由回答を一部抜粋したので参考にされたい。

[大学院向けアンケート調査]

問10. 社会や企業における、大学院や大学院修了者の価値を高めるために、国や大学が取り組むべきことについて具体的に記述してください。

コメント	専攻分野
財政支援	
・ 教育費用を軽減するための財政支援と税法改正。	社会科学
・ 大学院に対する国の一層の財政的支援。	社会科学
・ 財政面で苦しいので補助金の増設。	社会科学
・ 教育予算の大幅な増額を希望。	理学
・ 大学院や大学院修了者の高度な知的能力を創出し、生かすために、更なる財政支援が必要。	その他
・ 社会や企業は実用的応用的研究成果を求めているが、これらを支援する制度が不足。また、これを企業とコラボレーションさせることが必要。	その他
研究への予算、助成金の増額	
・ 研究促進のための公的助成金の増加。	人文科学
・ 研究費増額の支援。	人文科学
・ 研究資金の援助。	医・歯学
・ 研究における十分な資金と施設を提供し、各自の持つ能力を十二分に発揮できる環境の整備が必要。	工学
大学院予算の増額	
・ 大学院への予算の増額。教授のいくらかは大学院専任にするよう、文科省は検討が必要。	社会科学
文化・芸術関連予算の増額	
・ 文化・芸術関連予算を増額し、国家・社会における位置を向上が必須。	人文科学
国際性を高めるための予算措置	
・ 国際性を高めるための予算措置。	工学
奨学金・経済的支援	
・ 院生への奨学助成。	人文科学
・ 院生が経済的不安がなく研究に専念できるよう支援の枠組みの拡大を国に希望。	人文科学
・ 研究に時間を十分さけるように、奨学金等の生活支援制度の整備。	理学
・ 奨学金制度の充実。	工学
・ 企業からの大学院生への奨学金支給。	医・歯学
・ 大学院生に対する経済的支援。	医・歯学
・ 国、大学ともに奨学金制度を充実させ、大学院生が自活しながら（親からの経済的援助なしに）研究に従事できるような環境の整備。そのための税制の優遇。	薬学
・ 大学院としては外部に対し、研究や教育それらの成果、そのための取り組み等について、紹介・情報発信を実施。国は、大学院生の期待や支援のあり方について検討をするとともに、実施内容を公表することが必要。	その他
・ 奨学金給付枠の拡大による研究の充実。	教育
院生の就職支援	
・ 国が大学院修了者の就職希望に対応すべき窓口を設け、企業へ紹介できる様な体制を整備することが重要。	社会科学
人材養成に向けた大学の意識改革	
・ 大学院～研究志向という見方を改めるために、専門職大学院が出てきたのは良いと思うが、中途半端。評価を高めるには、大学がきちんと教育をしなければならない（小数の研究者養成を考えれば良かった時代とは異なる）意識改革が必要。	工学

コメント	専攻分野
・ 社会的ニーズに合わせた教育プログラムの作成を大学が推進。	医・歯学
・ 大学院に期待されるものを浸透させる取り組みの実施。	その他
・ 個々人の持つ可能性の開花につながる評価方法の開発。	その他
・ 人材養成機関としての機能（専門家養成）を大学側が向上することが必要。	－
・ 社会や企業のニーズを的確に捉えそれに対応することが重要。	－
・ 現状を認識し、即戦力となる人材を育成すること。	－
人材育成、能力向上	
・ それなりの学力、実践力、応用力を備えた人材養成を目指すこと。	人文科学
・ 専門教育の充実と修了者の問題設定の解決能力を高める教育。	社会科学
・ 職場に配置されてすぐ役に立つことだけが教育目的ではなく、長い期間で見たとときに役に立つ人材の育成の必要性を説くことが重要。	理学
・ 修了者の能力の向上（大学）。	工学
実学的教育・研究の充実	
・ 専門領域を実学の立場からする教育プログラムの用意。	工学
・ フィールドワークとして本部の機関で、実学的教育を責任もって行える制度の確立、特に地方の遠隔地対策。	工学
・ 社会や企業は実用的応用的研究成果を求めているが、これらを支援する制度が不足。また、これを企業とコラボレーションさせることが必要。	その他
・ 大学は、企業でどんな分野が役立つのか、もっと研究が必要。	－
高度職業人養成の拡充	
・ 高度職業人養成のための具体的カリキュラム設定。このことに対する国の支援の実施。	社会科学
・ 社会、経済を支える高度な専門性を持った人材の養成。	理学
・ 専門職大学院を活用しての資格取得。	医・歯学
・ 本学の院生は教員志望が多いので、大学として教員採用試験対策に取り組むことが急務。	教育
カリキュラムの魅力向上	
・ 大学としては優秀な学生が進学してくるよう魅力あるカリキュラム等の整備が重要。	人文科学
・ 文系における社会人教育（特に大学院での教育）の重要性について、社会、企業とも認識不足。大学院での社会人教育の設計にあたってはしっかりとした理論に基づく応用力、実践力を身につけさせるべく、国や大学は努力が必要。	社会科学
基礎学力、基礎研究の重視	
・ 実学教育に傾いた評価に偏らない方向の堅持。	人文科学
・ 幅広い基礎学力と論理的思考能力をもっときちんと鍛えること。	理学
実践的・実務的な教育	
・ 大学は現場を連携し、より実践的な教育が行われるよう条件等を整備すること。	人文科学
・ 高度な実務的専門的カリキュラムの構築。	社会科学
研究環境整備	
・ 研究環境の整備（RA制度の充実等）。	人文科学
・ 研究における十分な資金と施設を提供し、各自の持つ能力を十二分に発揮できる環境を整備すること。	理学
大学内における大学院の地位の向上	
・ 大学院の大学内における地位の向上。大学院への予算の増額。教授のいくらかは大学院専任にするよう、文科省が検討すること。	社会科学
・ 学術系大学院とプロフェッショナル大学院の違いを明確に意識した教育体系を大学が提供すること。	社会科学
国際的に活躍できる人材の育成	
・ 多角的広角視野のある人材の育成。国際的コミュニケーション能力（英語を含む）の向上。	工学
研究教育の充実	
・ 大学院での研究教育の重要性を国も大学もってアピールしていくこと（広報）。	社会科学

コメント	専攻分野
研究内容の改善	
・ 優秀な研究。	医・歯学
専門性の充実	
・ 専門性の充実。	薬学
履修年数の改編	
・ 修士（博士前期）→2年では短すぎるから、博士後期（3年）と一緒にして5年コースにすること。	人文科学
評価制度の確立、学位等の社会的位置付け明確化	
・ 大学院で何を修めたかを明確にするとともに、評価制度を確立すること。	人文科学
・ 学位等の資格制度の社会的位置付けの明確化と社会構成員によるそれに対する理解が重要。	社会科学
・ 人文・社会科学系大学院修士修了者のキャリアに関し、キメ細かい資格認定制度の設置が急務。キメ細かいとは単なる既存の専門・資格等にとどまらない、基礎学力・応用力などを含むもの。	社会科学
・ 特に修士の学位が高度専門職業人としての活動を基礎付けるものであることの理解の普及。	社会科学
・ 修了者への能力評価とその対価の要求（大学、国）、修士修了者への能力の格付（国）。	工学
・ 国としては将来の知的立国を担う存在としての大学院生を優遇する政策を導入することを考えることが必要。大学・企業としては大学院卒のキャリアを正当に評価するキャリアパスの確立が必要。	医・歯学
・ 習得した実力を評価、専門資格の認定。	医・歯学
・ 大学院修了者に相応しい給与、地位を与えられるような環境作り。	保健
国家資格等の試験における院了者の優遇措置	
・ 公務員試験や国が行う各種資格試験における大学院修了者の優遇制度（一部受験科目の免除など）の実施。	社会科学
・ 大学院修了者の教育免許状の制度上の位置付けが不明確。	農学
・ 学位の有無により学内の待遇、関連団体(学会等)での資格に格差をつけ、学位の必要性を高めるなどすることが必要。	医・歯学
・ 大学院修了者の国家公務員への積極的な採用。	その他
・ 資格取得に対する受験資格を大学院の修了要件として組み入れること。	—
他大学との交流の促進	
・ 他大学大学院との交流促進と、業績評価基準の共通化。	家政
・ 海外でなく国内大学院への留学の展開。	—
大学院修了者の評価を下げる	
・ 少子化によるユニバーサル化の時代および学士課程におけるレベルの多様性を考慮した場合、大学院修了者の能力は以前より評価を下げる。様々な業務（専門家としてではなく）に携わらせること。	理学
企業等との交流促進、交流の評価システム等の導入	
・ 交流メリットを相互に理解し、評価するシステムの構築。	人文科学
・ 企業との交流促進の窓口整備。	工学
・ 実習、実験、演習などの拡充と企業との連携。	工学
・ 大学院と企業との人的交流の活発化。	医・歯学
・ 大学は企業・自治体等との社会連携を一層進め、大学院での研究成果を還元していくことで、大学院修了者の価値を認識してもらうこと。	—
・ 社会や企業との連携の推進。	教育
共同研究の推進	
・ 公的機関・民案機関を問わず、共同研究等を積極的に行い、相互に理解し合える環境を整備すること。	人文科学
・ 産学連携研究開発の推進。	工学
・ 価値の評価を高めるには、地域の市民団体や公的機関と連携し、国や地域が抱える問題の解決に向け、大学院修了者が積極的に貢献すること。	保健

コメント	専攻分野
<ul style="list-style-type: none"> 社会や企業は実用的応用的研究成果を求めているが、これらを支援する制度が不足。また、これを企業とコラボレーションさせることが必要。 	その他
国内外インターンシップ制度の導入・実施	
<ul style="list-style-type: none"> インターンシップの普及、特に国際レベルでの展開の推進。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ教育に対する支援。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 修士、博士課程在籍者のインターンシップ制の積極展開を図るとともに、国や地方自治体で大学院出身者（特に博士課程出身者、専門職大学院出身者）を積極的に採用することが重要。 	—
院了者採用の職務・機能の明確化、処遇の優遇	—
<ul style="list-style-type: none"> 大学院での研究内容を採用条件に反映させる努力を実施。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> ゼネラリストが重視され、スペシャリストである院了者が評価されない傾向が強いため、院卒者が担うことのできる職務や機能を明確化し、積極的に採用することが必要。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者に対する給与面での優遇策の提示が必要。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 企業の積極的採用と専門家としての処遇。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 学部卒・博士卒と変わらない現状では、優秀な学生は博士課程への進学を考えないため、給料等の面での博士号取得者への配慮を希望。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉の分野では、大学院修了者の広い意味での待遇の仕方がよく理解されていないため改善が必要。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の受け入れ体制を企業や社会が整備すること。（給与報酬、地位、専門ポスト etc） 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> 工学系の大学院修了者に対する、給与面を含めた扱いがもう少し高くなるような取り組みが必要。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> （大学院修了生を雇用すると税制上優遇するとか、大学院生の雇用を義務付けるなど）企業が大学院生受け入れに積極的になるような、雇用上の優遇を希望。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 専門職制の確立とその待遇の改善。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> 給与体系の新設/改訂。 	農学
<ul style="list-style-type: none"> 給与の格差をつける（資格として）、教員等の登用の条件の1つとする制度の整備。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> 専門知識や技術を持った人をきちんと地位的にも処遇すること。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> 給与に対する配慮。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> ふさわしい処遇、給与面での配慮。 	教育
<ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の学位に相応する給与体系の導入及び導入の推奨ないしは勧告。 	—
<ul style="list-style-type: none"> 専修免許状取得者に対する待遇等の優遇措置。 	—
<ul style="list-style-type: none"> 国家資格に直接結びつかない修士学位（MBA）の評価が社会全体および企業において高まるよう支援を希望。 	—
<ul style="list-style-type: none"> 本学の場合、社会人学生としては現職教員を受け入れているが、教育現場で大学院修了者が優遇措置が受け入れられるシステムの整備を希望。 	教育
<ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の教員採用枠の拡大。 	教育
専門的人材の必要性を企業側が認識すること	
<ul style="list-style-type: none"> 一般的に言って我国の公私の社会福祉サービス機関は社会福祉サービスの質の向上のためには高度の専門性を身に付けたワーカーが必要なことについて、理解が不足している状況。管理層の社会福祉サービスについての理解を深める努力が必要。 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> 文系における社会人教育（特に大学院での教育）の重要性について、社会、企業とも認識不足。大学院での社会人教育の設計にあたってはしっかりとした理論に基づく応用力、実践力を身につけさせるべく、国や大学も努力が必要。 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> 社会科学系の大学院の場合、理工系の大学院と違い修士課程修了者を高く評価していないのが現状。高度な知識をもつ思考力のある学生として対処する社会全体の仕組みを作ることが必要。 	農学
<ul style="list-style-type: none"> 他国に比べ流動性の低い我国の専門家（人材）をより有効に活用できる社会作りを国や社会に希望。 	—
<ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の経歴・研究歴や能力に対して、正当な評価をしていく体制を作ることが重要。 	—

コメント	専攻分野
<ul style="list-style-type: none"> 企業は大学院生の研究の中身にもっと注意を払うことを希望。 	—
院卒採用者の拡大、ポスドクの採用	
<ul style="list-style-type: none"> 大学院で学んだ専門性が活かせるような積極的な採用の拡大。 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> 採用基準・資格に大学院修了者明記。 	農学
<ul style="list-style-type: none"> 博士課程修了者の企業による受け入れ。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 国立大学出身者は研究職、私立大学出身者は営業・開発職としての採用を方針とする企業が多い傾向あり。 	薬学
<ul style="list-style-type: none"> 採用の際の大学院修了者枠の明確化。 	—
<ul style="list-style-type: none"> 国や地方自治体における、大学院出身者（特に博士課程出身者、専門職大学院出身者）の積極的な採用。 	—
雇用の確保、社会的需要の確保	—
<ul style="list-style-type: none"> 雇用の確保。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者に対する社会的需要が少なく、同時にその需要が偏在。卒学後の市場確保が必要。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> PD（ポスドク）の職域確保。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> ポスドク就業支援体制の創設。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ポスドクタルフェロー（流動型研究員）制度の充実。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の雇用受け入れを推進することや質の高い人材の輩出を今後も努力することが重要。 	—
企業による従業員の大学院通学支援	
<ul style="list-style-type: none"> 大学院での勉学を容易にする勤務体制の導入。 	—
大学における積極的な広報、PR	
<ul style="list-style-type: none"> 学位に対応する教育プログラムの内容的基準（知識レベル・スキルなど）およびそれに応じた職種等との関連の明確化。 	その他
<ul style="list-style-type: none"> 今日大学院の教育が多様化しており、とりわけ社会のニーズに柔軟に対応しようと取り組んでいることの広報に努めることが必要。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 企業等への働きかけ。特に文系の院生。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 大学院での研究について社会や企業が関心を持つようにするための取り組みが必要。 	家政
<ul style="list-style-type: none"> 各大学が個別に示している人材育成の目的を社会とリンクした形で一覧できるように社会に提示すること。 	その他
<ul style="list-style-type: none"> 大学院としては外部に対し、研究や教育それらの成果、そのための取り組み等について、紹介・情報発信が必要。国は、大学院生の期待や支援のあり方について検討または実施を公表することが必要。 	その他
<ul style="list-style-type: none"> 大学院及び院生が取り組んでいる研究内容についてアンケート等で実状を把握し、それを広く社会に知らしめる方法を講じること。 	—
<ul style="list-style-type: none"> 能力の有効活用をはかり、成果の公表等によって評価を向上させることが重要。 	教育
リカレント教育促進の社会的コンセンサスの醸成	
<ul style="list-style-type: none"> 自治体や企業からのリカレントのために大学へ職員を派遣する社会的コンセンサスを推進する取組の実施。 	人文科学
その他	
<ul style="list-style-type: none"> 大学院や大学院修了者の価値の評価を高めることの意味が多様であり、この質問の意図が不明確。質問をもっと具体的にすることを希望。 	農学
<ul style="list-style-type: none"> 大学が掲げる目的の達成に向けた取り組みを通じて、可能となるものとする。 	薬学
<ul style="list-style-type: none"> 実態を把握することであって、制度化は必要なし。 	—
<ul style="list-style-type: none"> 大学院生や修了者が国際社会で活躍できる場を提供すること。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> 修了者リストとその専門性を記載した情報を企業に提供すること。大学院修了者の修了後の社会における実績を集約して示す等。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 大学院での研究教育の重要性を国も大学ももっとアピールしていくことが必要（広報など）。 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> 互いの立場を意見交換できる場の提供を希望。 	農学
<ul style="list-style-type: none"> 再教育を受けやすくする為の時間的ゆとりを持たせること。 	人文科学

[社会人向けアンケート調査]

問19. 大学院に対し、希望することを具体的にお聞かせください。

コメント	専攻分野
実践的な内容、就職後役立つ内容を重視	
・ 実社会に応用できない、理論を前提とした、講義や研究ではなく、より実践的に実社会の即戦力になるような人物を育てるような教育をして欲しい。	社会科学
・ 今までの教授などには誰も研究していなかった分野を探求されている人も多いが、そのような教授だと得意分野があまりにも特殊すぎるので、今後もビジネスの世界で活躍していこうとする社会人向けの指導は難しいと思う。	社会科学
・ 実践的で、研究としても質の高いものを期待します。	人文科学
・ 工学系の大学院については、「研究第一」主義だった。(場所によるかもしれないが・・・) 実際社会にでると、役に立たないことがほとんどで、2年間を無駄に過ごしている感がある。	工学
・ 範囲の狭い研究だけでなく、実社会ともっと繋がりを持った、大学院に通いながら社会の勉強もできるような演習のあるカリキュラムがあるととてもよかったと思う。	農学
教育内容の充実、カリキュラムの充実	
・ 特色のある、専門的で実践的なことを学べるようなカリキュラムを組んで欲しい。	人文科学
・ 大学院とは日本の学業の最高峰であるが、実際通ってみると大した内容の事は学んでいない。間違いなく海外諸国との学力レベルの差は広がるであろう。	工学
・ 従来は学部で行っていたレベルの教育の充実(大学進学が広く一般化した現在、学部における従来の教育レベルを保てていないため)。	社会科学
・ 基本的でかつ大学院にふさわしい高度な理論や分析手法の取得とケーススタディ・論文作成といった、各学生の関心のある又は職務関連の具体的な分析能力の向上が図れるようなカリキュラムが望ましい。学部レベルでは、質的に不足する部分が多く、一定レベル以上の能力を身に着けるためには、大学院教育が不可欠であると思う。	社会科学
・ 臨床医学専攻の大学院は、事実上講義などまったくない、実習もない。ただ在籍して高い授業料を払わされて、勝手に実験して論文を書くだけ。まったく機能していない。	医・歯学
個人に合わせたカリキュラム、内容の自由な選択	
・ 特定の業務の高度な技術修得をしたいと思っても、授業単位で学費を払う大学院は少ないし、授業の開講日時が限られている為、もうすこしフレキシブルに対応してくれると助かる。	人文科学
・ 学部(大学)とは異なる制度として、本人の能力、経験、実習等を十分に実践、研究できる部門にすべきである。	人文科学
・ 時代に合ったカリキュラムを組んで欲しいです。個々の教授の狭い専門分野に限るのではなく。	社会科学
・ 大学院生にもなると、一人ひとりの特色が出て、その人だからできることが多々出てきます。そういった個々の能力を活かせるような環境作りができれば理想かもしれません。	理学
・ 落ち着いて研究できる環境を作ってほしい。広い知識もちろん必要で、必要単位数が決まっているのはいいが、興味のない授業を必修だからととらないといけないうのはきついのもっと自由に選択できるようにして欲しい。その際、自分の専攻学科だけでなく、他研究科の授業もとれるようだといい。	工学
時代にあったカリキュラムの見直し	
・ 大きく変わっていく社会の先を見据えた教育、講義が欲しい。	理学
・ 社会の流れに合わせた授業内容であってほしい。	人文科学
・ 私が行っていたところは実際とはかけはなれた建前のカリキュラムが設定されていてそのカリキュラムに従って履修認定を教授からもらわなければならないという全く無駄な作業をさせられていた。公立大学のいかにもお役所的な馬鹿馬鹿しい作業であった。そのような無駄な労力を学生に使わせることは絶対になくして欲しい。	医・歯学
ハイレベルな専門知識・技術習得	

コメント	専攻分野
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学問を真に探求できる唯一の場が大学院であってほしい。いまのままでは、学部と大差なくなってしまう。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業や学生に迎合するのではなく、真に学問を追求する姿勢を見せてほしい。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実務に即した、というよりも専門的な知識とそれに対する洞察力の育成を中心に行って欲しい。 	社会科学
基礎研究の充実	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業への就職が最終目標であるかのような教育ではなく、研究活動に必要な知的基礎体力を養うようなカリキュラムを設定してほしい。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 流行に流されず、しっかりと地に足をつけた基礎科学の教育を怠らないで欲しい。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 工学系の場合は企業と連携により、より実践的な教育に力をいれてもらいたい。一方、基礎研究や学際的研究も重要であり充実化も重要。 	工学
研究内容の充実	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院での勉強は、授業よりもどちらかといえば研究の方が主体である為、授業があまり負担になるような状況だとつらいと思います。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究自体が、世の中のために役に立ちやすいことが重要。テーマによっては、単に研究のための研究をしているところもかなりありました。また、大学院を修了して、勉強のための勉強をしてきたのでは意味が無いわけですから、そのことで自分の人生が大きく変化して明るい方向に向かうことが大事だと思っています。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ・ その専門分野について社会に貢献できる研究を深められるような場であってほしいです。 	教育
基礎と応用のバランス	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会に通用する実践的な勉強と、大学でしか学べないアカデミックな部分の両立。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物事の多面的な見方捉え方のトレーニング、基礎理論。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門知識プラス応用力が身につくこと。 	医・歯学
即戦力を育てる環境づくり	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実務経験のある講師による講義および実務経験に基づく実験などを多く取り入れ、即戦力となる技術を習得したい。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的分野としての学問だけではなく、実際に応用可能なノウハウに近い知識と結びつけ学ぶと、社会に出たときに戦力として、さらに価値が高くなる。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 工学系だとより企業的な即戦力となりえる力を育てられるような環境づくりが必要。 	工学
実践的教育者の育成	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会に出たときに役立つ知識、能力を自発的に身につけられる場として、実践的な講義がたくさん開講されているといいなあとと思います。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究内容の充実と実践的技術者の育成。 	工学
プレゼンテーション能力の重視	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の成果を発表する能力の指導を重視してほしい。 	工学
学問をするにふさわしい環境作り	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の最先端の研究に関する情報にあふれており、講義内容が知的刺激に満ちている。ディスカッション等を通じて問題意識が高められ、常に発展できるポジティブな環境、雰囲気満たされていること。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> ・ より良い教育環境の維持と確保をお願いしたいです。 	農学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理科系は実験科目や研究できる体制を整えていただきたい。学会での発表・投稿も必要と思う。 	家政
自分のやりたいようにする時間的ゆとり	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間にゆとりあるカリキュラム 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が大学院生だった頃は暇であったが、そのおかげで自分のしたい勉強ができてよかった。社会人になる前の、自分に必要なスキルを身につける最後の機会なので、暇なほうが望ましい。 	理学
研究者の育成	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職大学院でない通常の大学院においては、研究者の養成という基本点を見直してほしい。 	人文科学

コメント	専攻分野
<ul style="list-style-type: none"> 研究者養成課程と職業教育課程を明確に分離して、研究者養成後に安定した研究環境を提供できるように、その人数をあらかじめ制限すべきである。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 社会人学生を意識しすぎて、研究者を目指す一般の大学院生のための教育をおろそかにしてほしくない。 	社会科学
卒業条件をもっと厳しくする	
<ul style="list-style-type: none"> 大学院は専門的なことを学ぶ場所なので“仕事をしながら”のような中途半端で簡単にとれるような制度を作るべきでない。 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> 単位取得および修了の基準を明確にし、現役の学生に対して安易な単位認定および修了を認めないで質の高い同窓生を輩出して欲しい。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> 大学院の定員枠を広げ過ぎて、研究能力のない学生が大量に入学しています。「ゆとり教育」と「大学院重点化」という制度の両立はむちゃです。 	理学
資格との連動、資格の取得が可能に	
<ul style="list-style-type: none"> 特定の資格がとれるようなカリキュラムを組んでほしい。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 選択の幅が広いことと免許取得がしやすいこと。 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> 専門的な知識や教育を得られることはもちろんですが、「修士」や「博士」過程を修了したというだけでなく、何らかの「資格」と連動していると今後に向かって大学院へ行こうという選択肢が広がる気がする。 	工学
社会人としての基本資質を身につける	
<ul style="list-style-type: none"> 学問／理論などの基礎的な教育・研究も良いが、ビジネスマンとしての実務的な能力を高めるような教育を増やして欲しい。例えば、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、文章記述能力など。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> 私は研究室に配属されても教授が全くの放任主義でゼミで教えることしかできなかった。実態は先輩に研究について学ぶ体制であった。しかし一応学校であるのであるから研究室での教育体制はある一定基準を設けもう少し生徒の方に目を向けてほしい 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 実社会に即した高度な教育や研究も必要だし、一方、実社会に即役立たなくても、長期的に必要な高度な教育や研究も必要。高度な学問や教育を受ける前に、最低限の社会常識やマナーができるようにしてほしい。あまりにも、大学院に行っている＝何をしても許される選ばれし社会的特権階級、と思っている人が多すぎる。 	医・歯学
研究室における、生徒に対する教育の充実、木目細やかな指導	
<ul style="list-style-type: none"> 研究室に配属されても教授が全くの放任主義で、ゼミで教えることしかできなかった。実態は先輩に研究について学ぶ体制であった。しかし一応学校であるのであるから研究室での教育体制はある一定基準を設け、もう少し生徒の方に目を向けてほしい。 	工学
大学院のあり方の見直し、少数での徹底した教育	
<ul style="list-style-type: none"> 大学院のあり方を見直し、もっと入学基準を厳しくし、定員を減らして大学院に行く人を抑制して欲しい。あるいは、修了基準を厳しくしてなかなか修了できないようにして欲しい。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 大学で学ぶべきことと、大学院で学ぶべきことの境界があいまいと感じる。マニュアル化すべきとまでは言わないが、大学での姿勢や研究をダラダラと続けさせるのではなく、明確に線引きを行い、より踏み込んだ研究や思考方法を行ったり、身につけられる様に、指導を考えて欲しい。 	工学
卒業認定単位の削減	
<ul style="list-style-type: none"> 卒業認定単位の削減。 	工学
講義を受けられなかった場合の補習	
<ul style="list-style-type: none"> 講義を受けられなかった場合の補習。 	工学
国際的な人物育成にむけた教育	
<ul style="list-style-type: none"> 語学力の強化をしてほしい。社会人の中には苦勞している人も多い。 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> 実践的な外国語教育、訓練の場を増やしてほしいと思います。たとえば、国際学会での発表を支援してもらえような教育制度があればいいと思います。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> グローバルな視点を持った、学生・社会人の育成。 	家政
大学院でしかできない教育・研究の充実	

コメント	専攻分野
<ul style="list-style-type: none"> 分野にもよるが、純粋な学問研究の府としてあってほしい。社会人がキャリアアップのために通うのなら、大学院ではなくビジネススクールの方がよい。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 企業との連関は必ずしも必要ではないと思う。純粋な学問追求機関となってほしい。 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> 修士課程で卒業して社会にでる場合、大学院でしか得られないものが 多いほど魅力があると思う。通常は、社会に出て給料をもらっているところを、「授業料を払ってまで勉強してる」わけだから。 	理学
学際的な教育・研究の充実	
<ul style="list-style-type: none"> 文学部などでもなるべく今現在行われている、他者の研究や現代社会と組み合わせた授業や研究ができるようにしてほしい。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 今流行の実学の充実とともに、基礎研究の充実と社会への理解の努力をして欲しい。人文、社会、自然科学をクロスオーバーさせた学際的なカリキュラムを選べるようにしてほしい。社会人の通学を促すために、修業年限をフレキシブルにして欲しい。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 人文関係の分野のうち、文学などは冷遇される傾向にある。本来は他の諸分野との連携が柔軟にできる分野なので、文学以外の研究・教育機関との連携を積極的に進めてほしい。 	人文科学
社会観の醸成	
<ul style="list-style-type: none"> 研究者として育つとともに偏った生活をしがちなのでまともな社会観も養ってほしい。 	工学
インターンシップの充実	
<ul style="list-style-type: none"> インターンシップを必須科目にして欲しい。自分の興味ある企業で資料と実際のギャップを見てもらうのもいいと思う。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 研究者になる人がすべてではないため、研究ばかりでなく企業へのインターンシップなどを経験させることが望ましい。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 将来の就職に直結するインターン制度の充実 	家政
社会人への大学院教育の見直し	
<ul style="list-style-type: none"> ストレートマスターと社会人入学者が混在している場合、教官の対応をきちんと分けていただきたい。社会人は学生とは違う目的があるので、研究一筋と言うわけにはいかない。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 世の中はまだ仕事をしながら大学院に行くことに理解はありません。経済的負担より、時間的な負担軽減が全てだと考えます。 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> フレキシブルな講義と、一定の時間帯なら指導が受けられる環境が欲しい。また、社会人だからと言って遠慮することはなく、きちんとやって欲しい。 	理学
学問、家庭、仕事の両立のため履修のフレキシビリティ	
<ul style="list-style-type: none"> 修習期間については、短期・長期を含めてフレキシブルなコース設計が学生自身の手によって設計できる制度が望ましい(併せて途中変更も可能に)。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 大学院生の時は、時間の制約もあり簡単なアルバイト程度が限界だったのですが、正社員が通えるようになるには入学時期、曜日、時間帯等がかなりフレキシブルでないと続けることは難しいと考えます。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> 仕事をしていると当日になって予定が大幅に狂うことが多いので、経済的な面で、講義の開始時刻1時間前までの連絡なら費用の返却などをしてほしい。 	薬学
社会人、外部の人間等への門戸を広く	
<ul style="list-style-type: none"> 大学院で高度な学問を追究するにあたって、前提となる知識が必要なのはわかりませんが、むしろ入学を簡単にして、今から学ぼうとする学問領域に対して受け入れやすくしてほしい。少なくとも他の学問領域から来る大学院修了者には門戸を開いて欲しい。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 学部からの進学に限らない、広く社会全般に対する門戸開放の充実。 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> 会社に入ってから、専門を変えたいと強く思うようになる場合があるが、大学入試からのやりなおしは難しい。年をとってからでも、コースを変更できるように窓口を広げて欲しい。 	理学

コメント	専攻分野
<ul style="list-style-type: none"> 仕事をしながらドクターコースに通うことを考えると、学校だけでなく会社によるバックアップも多少必要になると思います。より企業に開かれ、またその大学の特色を提示される必要があると思います。 社会人卒を増やして欲しい。国公立大学すべてにおいて、社会人のための夜間部を作って欲しい。 	工学
論文博士、論文修士への理解	
<ul style="list-style-type: none"> 社会人ドクターに対する、論文や特許の配慮。 	工学
夜間、土日開講	
<ul style="list-style-type: none"> 研究を行うのが昼間では仕事との両立ができないので授業や図書館など研究施設を夜型に移行してほしい。 社会人が就学しやすいように、遅い時間帯の講義や土曜日、日曜日のカリキュラムを組んでほしい。仕事の時間を削ることはできない。 土日、夜間に開講して欲しい。講義内容が、インターネット閲覧やビデオ録画されていて、いつでも復習 e t c が可能にしてほしい。 	人文科学
	医・歯学
	工学
Eラーニング、通信教育の充実	
<ul style="list-style-type: none"> 医学分野などでも通信過程を増やして欲しい。実践を積んでこそという分野でもありますが、理解していることが大前提のペーパーですむ知識は通信過程ですませてしまっても十分だと思うのです。理解しているかどうかはテストなどで知識の尺度をはかればよいのだと思います。 インターネットを利用した授業により、授業に出席できなくても単位取得が可能なシステムを希望します。 学数が多数ある都会の地域は授業など選択の余地があるが、地方では大学数が限られて希望する授業が開催されていないことが多々ある。通信教育プログラムも充実させて欲しい。できれば国立大学や放送大学にも。 	医・歯学
	社会科学
	理学
仕事場に近い教室の設置	
<ul style="list-style-type: none"> 社会人向けに、本学キャンパスではなくて、サテライトキャンパスを設置して欲しい。 社会人が問題なく通える環境に、クラスを設置してほしいですね。 	人文科学
	工学
職場の上司の承認が必要、休業しないと入学できないという制度の改善	
<ul style="list-style-type: none"> 会社と上手く両立出来るといいと思います。 	工学
社会に出てからの研究へのフィードバック	
<ul style="list-style-type: none"> 社会に出てはじめて具体的に勉強したことが見えてくる部分もあります。それらは、かなり明確にピンポイントのテーマであることが多いように思います。そういったニーズにこたえられるスタイルがあればと思います。 いろんな意味でフレキシブルなところであってほしいです。社会にでてからも一度フィードバックしたいところ。社会実務との融合が大事だと思います。 	工学
	工学
働く時間の確保	
<ul style="list-style-type: none"> 学生と言っても今の大学院は、遅め入学が多いので、働きながら学業ができる環境を作って欲しい。 大学院は忙しく働く時間もあまり取れないので、もう少しフレキシブルになってほしい。 研究関係は、どうしても時間の制約があるため働けません。 	医・歯学
	工学
	薬学
企業との連携の強化、産官学連携	
<ul style="list-style-type: none"> あるテーマに基づいて、学んでいたが、応用されるまでに時間が掛かる為達成感が得られなかったので、企業と提携して、世に使ってもらえる製品を共同開発等ができれば、学生も会社員も接点ができ、いい勉強になると思う。 私が学んだ大学院は人文科学（文学）だったので、「学際的」とか、実務（企業）との連携とかいった側面はほとんどなかった。はたしてそれでいいのかどうか、疑問に思う。 企業とのつながりが薄い。実用化される研究が海外と比べて少なく、社会貢献ではなく漫然と目の前の研究を進めている研究が目立つ。教員たちの意識の問題でもある。 	工学
	人文科学
	理学

コメント	専攻分野
企業との共同開発、共同研究	
<ul style="list-style-type: none"> 有用な最先端の技術が学べることで、部下をまとめて研究を推進する能力を身に付けられるようなカリキュラムがあったらぜひ通いたい。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 企業との共同開発、それに伴う若い人材の発掘。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> あるテーマに基づいて、学んでいたが、応用されるまでに時間が掛かる為達成感が得られなかったので、企業と提携して、世の中に使ってもらえる製品を共同開発等ができれば、学生も会社員も接点ができて、いい勉強になると思う。 	工学
企業ニーズへの対応、企業ニーズにあった研究	
<ul style="list-style-type: none"> 単に研究を遂行するのみならず、研究者の立場から各企業人に不足していると思われる点を指摘して欲しい。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 企業ニーズと連携した研究テーマを決められる環境。 	工学
教員の質の向上	
<ul style="list-style-type: none"> 世の中の動きに即したカリキュラムの充実、魅力ある実技指導者による教育、会社の仕事にも応用できる教育を充実してほしい。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 教員のレベルを高くして欲しい。そして、実際に第一線で活躍している教員以外は大学院には不要。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 教員の知識が古いが多かった。社会人である生徒の方が最新の知識を持っているのでは授業料を払った意味がない。最新の知識を取り入れるために学外講師などの活用を積極的にすべき。 	社会科学
教員の横柄さ	
<ul style="list-style-type: none"> 教員『教授をはじめとする』人々の資質を高めて欲しい。コミュニケーションを取るのが下手な教員では、授業も面白くない。大学院という看板は出ているが、旧態依然の「教授＝偉い、それ以外＝バカ」の図式が存在している。生徒を教えるという責任を少し自覚してもらいたい。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 大学院時代教授の横柄さがひどかった。例えば、最初の研究は自分だけで行って、一切指導を受けていなくても、論文を出すとき必ず教授は自分の名前を入れさせて、自分の功績の一部する。このような非民主的な事は排除してほしい。 	理学
実務経験のある教員による指導	
<ul style="list-style-type: none"> 教授が実務経験の豊富な人ではないと、知識のみ先行して卒業したあとに役立つことが少ない。 	社会
<ul style="list-style-type: none"> 民間企業などで実務経験のある教員を養成することが急務だと思う。現時点では大学の研究は社会的には役に立たずに、予算だけを消費しているケースが多いように思われる。大学側から企業に歩み寄ることが必要に思われる。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 大学院で学べることは、指導教官の質によって大きく左右されるので、もっと実務経験のあるまともな先生が増えることを望む。ずっと大学にだけいて教授になって、世間知らずのまま理屈だけで生きてきた人間から学べることは少ない。教師の質を向上させることが学生のやる気にもつながると思う。 	農学
研究室の閉鎖性の排除	
<ul style="list-style-type: none"> 人文系の学閥的な風潮を払拭して欲しい。教員はもう少し社会性を身につけるべき。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 大学校（大学院含）とは、その地域に広く門戸を開き、多く勉学に勤しむ者の手助けとなる機関である云々…と、某学校規約にあったのを記憶しています。が、私が籍を置いた大学院は実はとても閉鎖的であったのではなからうかと思えます。今でこそ、学内ベンチャー等の新課程が設置されているようですが、それでもあくまで"課程"です。もっと企業と連携をとり、実践的な内容を以って、論文中心の研究からの脱却を図って欲しいと思えます。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 私の専門分野では徒弟制度的・封建的な色彩が強いです。これでは人間関係がどろどろしやすいので、何かシステムとして研究をしやすい環境を考えて欲しい。 	医・歯学
国内の他研究機関との連携	
<ul style="list-style-type: none"> 他大・図書館等との利用しやすい連携システム。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> 他の大学院とも提携し、他校でも授業を受けやすくして欲しい。 	人文科学

コメント	専攻分野
<ul style="list-style-type: none"> 他の学校ともっと研究をしてほしい。地方の大学は結構閉鎖的だと思う。また研究だけに没頭する先生も多いのもっと生涯教育を力を入れて地域にも貢献してほしい。 	理学
海外との提携	
<ul style="list-style-type: none"> 企業との交流、また海外の大学との提携など、もっと外とのかかわりを多くしてほしい。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 国際交流も図れること。 	工学
教員や制度の情報を公開してアピール	
<ul style="list-style-type: none"> 社会人に便宜を図っている部分をもっとアピールしてほしいです。便利な部分を気づかず就学を断念している人も多いのでは？ 	理学
<ul style="list-style-type: none"> 教員は大学院における1つの商品であるから、どのような教員がいてどのようなキャリアを持ったどのような人物であるのか、ネットや専門のコンサルタントを通じわかるとうれしい。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> 講座内容を広くわかるように伝えて欲しい 	家政
院生同士の情報交換の仕組み、研究の情報共有	
<ul style="list-style-type: none"> 社会人履修生が集まる場では積極的にディスカッションを通して、異業種交流の場を提供してほしい。 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> 大学院内の院生同士の情報を取得する手段が無い。この人は、こういった研究をしているとか、こういったことが得意であるなど、イントラ内で閲覧できる仕組みがあれば、協力できるところは協力し合い、より深く、広がりのある研究が出来ると思う。ただし、情報漏えいに対する対策をよく練る必要があると思う。 	工学
議論ができる場の提供	
<ul style="list-style-type: none"> 入学料とか免除で単位、科目ごとに支払いが可能になること。講義だけでなくディスカッションをメインで授業を行うこと。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識、ミーティングの充実、フレキシブルな研究主体の教育。 	工学
卒業まで確実に勉強をさせる体制、卒業試験を課すこと	
<ul style="list-style-type: none"> 大学院のあり方を見直し、もっと入学基準を厳しくし、定員を減らして大学院に行く人を抑制して欲しい。あるいは、修了基準を厳しくしてなかなか修了できないようにして欲しい。 	工学
体制による学兄との不公平感	
<ul style="list-style-type: none"> 韓国、中国からの留学生だけを金銭的に優遇するのはやめてほしい。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> 自分の場合は、試験を受けて1/2の確率で院への合格だったが、社会人は、スルーになり、簡単にドクターまで最低の3年間で取れるのが納得いかない。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 一般学生に比べ入学、学位取得に関し優遇されているため、引け目を感じる。 	薬学
サービスの向上、提供	
<ul style="list-style-type: none"> 博士課程の途中で、ポストが見つかったので、中途退学して就職しました。特殊なケースだったためか、そこから学位取得まで何をどうやったらいいのか、なかなか手探りの状態が続きました。カウンセリングや同じようなケースの人達を紹介してくれるような場があれば随分参考になったと思います。 	理学
多岐にわたってフレキシブルな対応を	
<ul style="list-style-type: none"> もっと柔軟な対応を取って欲しい(単位の互換制度など)。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> 今流行の実学の充実とともに、基礎研究の充実と社会への理解の努力をして欲しい。人文、社会、自然科学をクロスオーバーさせた学際的なカリキュラムを選べるようにして欲しい。社会人の通学を促すために、修業年限をフレキシブルにして欲しい。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> 他大学院での取得単位を有効とみなして欲しい。 	薬学
金儲けに走らないで欲しいこと	
<ul style="list-style-type: none"> 最近の大学でも金儲けを考える風潮を改め、儲からなくても本当に人類の為になるような基礎研究をやって欲しい。100年、1000年先の地球のために。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> 人集めで低レベル学生を量産する方向へいくことがないよう、専門知識・学力だけでなく、人格者であること。 	工学
楽しみながら探究できる体制	

コメント	専攻分野
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人になってからの場合、仕事以外のことになかなか目を向けられないので、そういうことに役立てばよいと思う。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 趣味に対して知識等を深めてくれること。趣味の補助になってくれること。 	工学
授業料を安く、経済的補助、奨学金制度	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業料くらいは国公立問わず、同一分野であれば大体同じ授業料体系。 	社会
<ul style="list-style-type: none"> ・ 流行に流されず、しっかりと血に足をつけた基礎科学の教育を怠らないで欲しい。通常、就職してフルタイムの収入があるのに対して、フルタイムの職に就きながら大学院に通うことは困難で、かつ学費を払いながら生計を立てなければならないので、経済的な支援がどうしても必要になってくる。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院に通って勉強をしてもそれを活かせる職につきにくい。高い授業料を払ってもその後の就職で挽回できるだけの給与を支払われる職に就ける見込みがうすい。以上の理由で、優秀な人は、修士までは取得しても博士まで取得しようと思う人が少なくなっていると思います。せめて、学費の負担を減らすなどしてほしいです。 	理学
単位、科目ごとに支払い	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 単位数のわりに費用負担が大きい。学部並みとは言わないが、ある程度単位数に応じた料金に設定して欲しい。 	社会科学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職しながら大学院に通う場合は、単位認定が主目的ではなく必要分野の知識のリフレッシュや新規学習の目的もあると思う。授業（単位）数ごとに授業料が支払いできるような柔軟な体制を作って欲しい。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学費の支払い方法に工夫が欲しい。 	医・歯学
研究を仕事にしつつ、講義を受けられるように	
<ul style="list-style-type: none"> ・ よほど運が良い場合でなければ、研究者が自立できるだけの給与を得られる状態にはならず、費用負担が大きすぎる。結果的に研究者が育たない。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究施設を充実し、そこで働く形での研究と、並行して授業が受けられるような制度があるとありがたいです。たとえ給料が安くても、学べてかつ僅かでも収入があるため、会社を辞めた形での就学が可能になります。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院生の献身的な研究（授業料を払って）の上に、大学院の講座が成り立っている現状は問題ではないか。 	医・歯学
研究会参加への補助	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究会参加に対する補助制度が欲しい。 	工学
給与や報償を与えること	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院内での就業の場の提供を積極的に行ってほしい。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院の場合、生活費や学費など金銭的負担が大きいので、何らかの形で金銭的援助が得られること。 	医・歯学
就職支援	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 院卒は就職できない（特に文科系）ので、斡旋をしっかりとって欲しい。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 何かの折に、企業と接し、将来の進路を具体的な形にする取り組みがあっても良かったのかも。自分は数学専攻なので、企業との接点が多めでなく、そのため、就職する際に、どの分野に進むか悩んだ経緯がある。 	理学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 逆に、大学院へ通いながら、生活できるだけの収入を持てるような仕事の紹介・斡旋が欲しい。特に、カリキュラムに即した実務的なものであればなおよい。 	人文科学
博士課程における就職支援	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 博士課程からの就職のバックアップ体制を強化して欲しい。 	工学
<ul style="list-style-type: none"> ・ ドクターをとった後の、就職先の充実（ドクターをとっても働き場所がない、日本の社会、企業ではドクターを必要としていない）。 	農学
研究設備の充実	
<ul style="list-style-type: none"> ・ やりたいこと、学びたいことをとことん勉強できるだけの設備とそれに応える教師。 	人文科学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究設備の充実を今後とも継続できるよう希望しています。会社では設備が充実していない（一部しか使わない）ので、様々な設備に触れられたことが貴重な経験となっています。 	理学

コメント	専攻分野
・ 企業と提携し、より新しい機械・器具を使って研究できるようにして欲しいです。	理学
シャワー施設、仮眠施設の設置	
・ 出来ればシャワー施設や仮眠施設の充実を図ってほしい。	工学
・ 研究費を確保して欲しい。仮眠設備、シャワーなども完備して欲しい。	農学
論文、文献、学術図書の充実	
・ 教員の充実、図書館・情報システムの充実。	人文
・ 蔵書の充実。	理学
・ 文献を増やして欲しい。	教育
保育施設	
・ 保育施設があるといいかも。もしくは近所の保育施設と契約するなどでもよい。	工学
その他	
・ 指導教官の力量を前もって知ること。	人文科学
・ 大学院と大学と時間が違った大学院だった（社会人向け）ので、食堂が開いておらず、近くにコンビニもなくて困った。（いつも買ってから登校しました。）	人文科学
・ とにかく、敷居が高いように感じられる。	人文科学
・ 人文分野でも IT 分野の活用を盛んにしてほしい。	人文科学
・ 金の問題が一番深刻だが、バイトレベルでも、大学院生という身分に理解があまりなくて、苦勞した。社会にもっとアピールする必要はあるだろう。	人文科学
・ 社会人入試に関しても、それなりのハードルは設けたほうが良いと思う。書類+面接だけでは不十分。	人文科学
・ 実務と理論には隔たりのあることが多いので、実務一辺倒でも理論だけでもなく、その両面を理解し、両面から学べることが理想だと思います。その意味で両面を理解できる教員やカリキュラムが用意されていてほしいです。	人文科学
・ 企業にいる間では難しい、体系的な学習機会の提供。	人文科学
・ 学位論文の十分な指導	人文科学
・ 仕事の事情で通学できなくなって退学しても、後から復学が容易にして欲しい。もう一度同じ入学試験を受けるのは、負担が大きすぎる。	人文科学
・ 社会人としての経験の無い学部から直接進学してくる学生は、非常にレベルが低い。	人文科学
・ 学部生への補助的指導や、助手への道の広い門戸。	人文科学
・ 研究の最先端であるか、就職のための学生排出機関となるかはっきりしたほうが良いかもしれない	社会科学
・ 「研究」よりも「教育」に力を注いで欲しい。	社会科学
・ 一般の学生と同じ待遇しかしてくれないのでつらいです	社会科学
・ 実習がなかったのに、実習代をとられたので、明細をしっかりとってほしい。	社会科学
・ 学費に見合った教育をするよう、意識してカリキュラムなど取り組んで欲しい。	社会科学
・ 大学院は専門的なことを学ぶ場所なので仕事をしながらのような中途半端で簡単にとれるような制度を作るべきでない。	社会科学
・ 莫大な数のODを就業させ、知的資源を活かすような制度を作るべきだと思う。個人的には卒業生であれば大学院の利用を生涯やりうるような便宜を用意してもらいたい。	社会科学
・ 修士号、博士号の授与基準を、入学前に検討できるように、標準化・透明化すること。	社会科学
・ 社会人学生を意識しすぎて、研究者を目指す一般の大学院生のための教育をおろそかにしてほしい。	社会科学
・ 修士号、博士号が確実に取れるシステムの構築。	社会科学
・ 日本の大学院も卒業後の交流を欧米並みに行うべきである。	社会科学
・ 研究の支援をしっかりとってほしい。論文作成のノウハウをきちんと指導するのはあたりまえでなかなかできていないことだが、それ以上に、継続的に研究できる環境（就職も含めて研究費を獲得するための手段を得ること）への応募方法やコツなどについても、きちんと丁寧に指導してほしい。	社会科学
・ 自習室の充実。	社会科学

コメント	専攻分野
・ 休学制度	社会科学
・ 一般の人向けの講座をたくさん開講して欲しい。	理学
・ 大学院では大学よりも一歩進んだ研究を行うことができ、研究に対する基礎技術が体験できました。 研究職に着かない限り人生の中でも2度と体験できないような貴重な経験ができると思います。今後も大学院の発展を期待しております。	理学
・ 研究設備の充実を今後とも継続できるよう希望しています。会社では設備が充実していない（一部しか使わない）ので様々な設備に触れられたことが貴重な経験となっています。	理学
・ 費用を安くして大学院を増やしてほしい。	工学
・ 博士への間口を広げて欲しい。	工学
・ 大学院への入学を容易にサポートしてくれる斡旋者がいてほしい。	工学
・ 教授と接する機会が欲しい。	工学
・ 自分が通っていた大学院では、十分満足できるものが得られました。制度としても満足しています。	工学
・ 研究の場を提供するというだけで十分。あまい言葉で勧誘しても、やる気の無い人間が集まるだけなので、反対。真剣に興味を持つ人間なら、場所と資金を提供し、論文等の指導を行うだけで結果は出ると思う。	工学
・ どこで情報を得れば良いのか分かりにくい。	工学
・ 終了した後でも聴講が必要と思った時に自由に聴講できること。	工学
・ 自分の場合、国際学会をはじめとした多くの学会への参加や論文提出を教授が実施してくれたため、視野の広がりを持てたり、また度胸やプレゼン能力の向上に大きく寄与してくれた。社会に出て10年ちょっと経つが、深い研究というよりは、企業とタイアップした研究等をテーマとし、このような学会等への参加が可能なカリキュラムがあるのであれば、夜間・休日等を割いてでも、通いたいと思う。	工学
・ 教授が学生の教育に熱心であってほしい。教授にも評価制度を導入すべき。	農学
・ 理科系の内容の大学院の開講を期待している。	農学
・ 最近は大学によってはレベルが格段に下がっているところもあるようです。意識が低い学生が多いのが気になりますね。教授やその他の講師陣の意識の低さにも驚かされる場所があります。今は、就職が困難だからとりあえず進学するっていう人も多いように効いています。もっとお互いが目的を持って欲しいと強く願います。	農学
・ 学際的な研究だけでなく、社会人の実際的な研究についても学位を出すような評価観点を取り入れてほしい。	農学
・ 学生の自由な発想を大事にしてほしい。	農学
・ 地方の大学も東京でのカリキュラムを用意して欲しい。	農学
・ 地方大学には、大学院教育のレベルに達していない教授がいるケースがある。理系なら論文数などを見れば客観的に資格がないことが明らかなのに、教授に選出されているケースもある。こうしたスタッフは嫉妬心が強く大学の仲間の足を引っ張ることもしばしば見られる。スタッフ選びはもっとも重要である。	農学
・ 自分の専攻テーマに無関係な講義や実習を画一的に行わないで欲しい。大学の教養のような講義は無駄でしかない。	医・歯学
・ 誰がどのような成果を挙げたか、明確になるよう工夫して欲しかった。	医・歯学
・ 大学院生を労働力として考えないでほしい。 学費を払って教えてもらえるはずの身分なのに、教室の労働力として雑用を強要される実態がある。 教授以下の大学付きの職種のヒトが働かなすぎ。	医・歯学
・ 医学系の大学院なので特殊だと思いますが、診療業務(ただ働き、というより学費を払って働く)を減らす、あるいはなくして欲しい。	医・歯学
・ 大病院で無給でフルタイムで働かされて、休日のバイトと過去の貯金で生活するだけ。今度生まれ変わったら、医学系の大学院には行かない。	医・歯学
・ 授業単位で単位を認めて欲しい。	医・歯学
・ ろくなテーマも与えられず、放り出すのはやめてほしい。せめてテーマの立て方や、文献の検索の仕方等、事前に具体的に教えてほしい。	医・歯学

コメント	専攻分野
<ul style="list-style-type: none"> 興味を持った内容に対し、まずは、お試しのような、短期コースがあったら嬉しい。それにより、大学院への進学を決定するかどうか決めた後は、それが1単位でもいいので、単位に認められたらと思います。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> 英語論文の書き方の指導。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> 開かれた大学院であってほしい。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> 個人の要望の反映。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> 医学部の大学院は課程、履修内容が講座ごとにまちまちで一貫性がない。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> 住居などの補助もほしい。 	医・歯学
<ul style="list-style-type: none"> まずは勉強分野を決めて、大学院に進んだほうがいい。 	薬学
<ul style="list-style-type: none"> 仕事をしていると当日になって予定が大幅に狂うことが多いので、経済的な面で、講義の開始時刻1時間前までの連絡なら費用の返却などをしてほしい。 	薬学
<ul style="list-style-type: none"> 講義の時間が不定期で計画が立てにくかった。 	薬学
<ul style="list-style-type: none"> 時間の融通をきかせてほしいと思う。 	薬学
<ul style="list-style-type: none"> 指導教官を複数にしてほしい。教官の能力・姿勢ひとつで学生の研究や進路に大きな影響が出てしまうと思う。研究分野は違っても、進路指導などの面では教官同士が連携を取り合うほうが学生のためにもなるのではないだろうか。 	教育
<ul style="list-style-type: none"> 論文ではなく、ケーススタディーで学位を出してほしい。 	教育
<ul style="list-style-type: none"> 時間とお金のある人間のための物にならないようにしてほしい。 	教育
<ul style="list-style-type: none"> 大学院修了後の研究が継続できるように他の仕事を持ちながらも研究生として籍が置けるようになるとう良い。 	教育
<ul style="list-style-type: none"> 教員の都合に左右されること（授業時間やゼミ時間の変更、突然の仕事依頼など）が多く、仕事がなければそれにも柔軟に対応できるが、仕事のために「ちょっとその日は仕事が・・・」と断る雰囲気がないのがつらい。「仕事なんてやめて研究に専念しろ」というが、生活ができないので金銭面で苦勞している点をあまり考慮してくれないので、その辺のサポートや理解がほしい。 	教育
<ul style="list-style-type: none"> 日本もアメリカのように、生涯教育をもっと推薦していくべきだと思うので、大学や専門機関も、もっと積極的にマーケティング（プロモーションなど）を行ってほしい。その結果、もっと多くの国民に生涯教育の大切さを理解してもらえれば、社会人や、年代が上の人でも、教育を受けやすい環境になると思う。 	芸術
<ul style="list-style-type: none"> 授業料と授業の関係をもっと明確にしてほしい。 	芸術

問21. 会社に対し希望することを具体的にお聞かせください。

コメント

大学院を出たことに対する正しい評価、向学心への評価、習得した技術・知識への評価

- ・面接などを用いて会社にとって有益な研究と納得してもらえば会社からお金を出して行ってもらおうという形にし、直接的に関係のない分野に関しては休職という形をとれるのがベストだと思う。
- ・大学院で受けた教育は、いずれ仕事に還元されるはずであるから、具体的な成果を評価するシステムがほしい。
- ・評価を明確化する。修士号、博士号によって給与体系を見直す人事が必要。

大学院へ行くことへの理解、学業で多忙なことへの理解

- ・そんなにキャリアを積んで何をするつもりなんだという職場の雰囲気を何とかして欲しかった。私の場合は復帰後すぐに海外勤務だったため、帰国後にはすんなりなじむ事が出来たが、そのまま元の部署に配属されていたらと思うと寒気がする。
- ・上司・同僚から逆差別されている雰囲気が強い風潮があるように思う、スキルアップを嫉妬していじめを行わない雰囲気づくりをすべき。
- ・大学院に通っていることがわかると、同僚や上司から、口先では大変だねとか良く頑張っているねなどいいながら、裏では妬み・僻みからか、仕事上で嫌がらせをしたり、陰口をたたかれたりするのは随分閉口した。研究活動にもっと正当に評価や援助があっただけでいいかと思う。

大学院へ行くことを奨励、積極的なバックアップ、大学院に通うことに対する社内の制度の明確化

- ・国内留学制度などを作って欲しい。
- ・教職など、一部の職種では大学院進学が推奨されているので、一般企業においても積極的に大学院進学希望者を募り、年間に何名かを大学院に推薦するような仕組みを設けるとよい。
- ・会社に大学院教育の認定制度があり、認定された場合に仕事の時間の一部を教育用に割り当て、学業にある程度集中できる時間的余裕を与えるような支援制度を設ける。その代わりに、大学院修了後は、その期待に沿った場合にだけ待遇を改善する。修了しただけで待遇改善はあってはならないと思う。公平に扱うべき。

経済的な補助、費用の負担

- ・会社にとって、メリットとなる教育を受ける場合は、時間・金銭面での補助をしてほしい。
- ・学びたい、という向上心のある者には積極的に補助を出すべき。(金銭的、というのではなく、社内的な自己啓発の一環として扱われれば社会人大学院生にもなりやすいと思う)。もちろん、出した補助の分は労働力・実践力として厳しい評価を期待しても構わないと思う。
- ・会社に関連する分野の大学院であれば、投資と考えると、何らかの補助があっても良いかと思う。全く関係なければその必要は無いと思う。

フレキシブルな労働時間、時間の融通をきかせられること

- ・就業時間の柔軟性を高めてほしい。
- ・講義のある日は残業させない、あるいは早退を認めるなどの柔軟な対応をして欲しいと思う。
- ・時間に対してフレキシブルになれば望ましい。通常の就業時間ではしっかり働けない。その時間を違うときに回すことが出来ればカバーできる。

賃金や待遇の保証、もとの職に戻れるようにすること、不利益が生じないようにすること、人事考課を下げないこと、その確約、不当な評価をなくす、給料を下げない

- ・通学による評価低下が最も困る。
- ・時間への配慮をして頂き、卒業後には最低限、元の仕事に戻れることと元の給与を保証して頂きたい。
- ・最低限、現在の地位を保ったまま職場に復帰できるように確約して欲しい。いったん退職して修業するのは非常に不安定です。
- ・会社側も先行投資として学業をとらえること、会社の利益として捉えること、人材育成としてとらえること。
- ・会社にとっても利益があることだと思います。管理職研修などでふれまわること、その雰囲気ができるような職場づくりが必要だと思います。
- ・経営者や上司が付加価値の高い業務開発にはOJTだけでは身に付きにくい高度な専門的知識が必要となることを理解し、目先のことだけにとらわれないでほしい。

コメント
残業の削減、仕事量の削減・調整、時間の確保
<ul style="list-style-type: none"> ・ 残業を減らして欲しい。今の職場には、残業が当たり前のような雰囲気があり、定時で退社しづらい。アフターファイブという言葉は全くあてはまらない。繁忙期と閑散期の波が激しく、しかも事前にそれがわかっていることは少ない。計画的に、いつからいつまでは定時で退社できる、というような仕事のやり方を許容して欲しい。 ・ もうちょっと業務のシェア化などをしていただければ仕事が減るのになあと思う。 ・ 残業しなくて学校に行って良い日みたいなのを公に設定して欲しい。
公言しづらい雰囲気を無くすこと、通学を認める雰囲気作り
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人によって理解の差が激しく、なかなか公表しづらい点。 ・ 大学院時代、仕事はしていなかったが後に仕事につきながら夜学に通った経験があるので……。入学書類で会社に許可をとらなければならず（業務に差し支え無しという）嫌だった。業務にはまったく影響無いようにした「つもり」だったが、残業をあまりしないなど実は迷惑だったかもしれない。同僚には全く内緒だったが精神的に疲れた。社会に広く再教育の理解が進むと良いと思う。 ・ 大学院に通っていることを公言しづらい雰囲気をなくす。
大学院で学んだ知識を生かせる分野への再配置、そのキャリアシステム
<ul style="list-style-type: none"> ・ 受けた教育内容を実際の仕事に活かせるようなシステムを構築してほしい。 ・ 大学院での勉強や研究の成果が、会社内で生かせるような部署への異動に配慮してもらいたい。
給与・報酬への反映、優遇
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院修了や学位取得を、報酬や手当に反映させること。 ・ （会社にとって、有用な研究成果を持ち帰ることが要件であるが）そのことで、給与面が優遇されたり、さらに最先端の技術を吸収させるために、留学させたりするほどの余裕がほしい。
休職制度、長期休暇制度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期休職（2～3年）が可能なシステムを構築してもらいたい。
有給休暇をとりやすくすること、無給でも休暇が取れること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 院で学んでいることが会社にとって利益のある場合は特に有給がとれるなど、待遇してほしい。 ・ どうしても会社を休まざるを得ない場合は無給でも休暇が取れるようにして欲しい。 ・ 通学期間のみ適用できるように、有給休暇の繰り越しを無制限にして欲しい。
柔軟な対応、柔軟な姿勢
<ul style="list-style-type: none"> ・ フレキシブルな対応。
研究者の派遣、大学院と会社との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院へ研究者を派遣し研究を行わせる、あるいは大学へ教員を派遣し人材育成をおこなうなど社会的貢献を行ってほしい。
外部研修として取り入れる、社員教育として推進、研修とみなす
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院の講座等が、企業としても、社員教育の上で有益となる可能性について、もっと研究して欲しい。 ・ むしろ新しい分野への事業の展開を考えるなら、社員教育の外部への委託と言う形で大学院に行かせるという見方もあると思う。 ・ 1年か2年を研修期間として認めてほしい。
共同研究、情報交換
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の企業は、大学と共同で行う事をしない為、もう少し利用するようにした方がよい。 ・ 専門知識習得の一環として大学院就学をもっと奨励して欲しい。産学協同研究など大学と企業の交流を増やして欲しい。 ・ 大学院教育で得たものをフィードバックできるように、大学院と記号の積極的な連携・情報交換をして欲しい。
大学院に通う時間も勤務に含めること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職として雇用しているのならば、学習のための時間を”研修出勤日”として規定してほしい。
人員不足に対する、会社側での体制確保、人員確保
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人員不足で人が抜けることが考えられない状態なので、抜けても大丈夫なような体制にして欲しい。仕事をしながら学校に通っている人がいるのかどうかもわからない状態なので、そういう制度が整っているのかもわからないので、規定をもっと検索しやすい状態にしておいて欲しい。

コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・ 好きで通うのだから、会社の理解を得たい云々は、甘えである。
会社の制度として認められているため満足、フレキシブルな対応をしてくれた
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際働きながら大学院生でいられたのは、職場の理解があつてこそでした。両立はやはり仕事の責任を考えると、わがままなことと思います。かなえてもらってむしろ感謝しています。
相互理解、社費留学生の流出についての制度について明確化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会社が恐れることは、中には大学院に通ったのに転職する人がいることだと思います。しかし、辞めずに長期的な展望から見れば、自社の社員が専門知識を身に付けることは当たり前で会社の財産となるべきものです。社員を大学院に通わせるなら、会社もそれなりの制約を行うのは当たり前だと考えます。その上での相互理解を求めます。 ・ 社費留学生の流出（転職）が問題になりつつあるので、卒業後の扱い（モチベーションの維持）について考える必要がある。
業務時間でなく、成果での評価、研究成果に対する正当な評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学中はとにかく時間がなくなるので、なるべく自分で時間調整がつけやすいポジションでの勤務や、評価は仕事量ではなく「実績」でみてもらえるような配慮が欲しい。 ・ 研究活動を業務として評価できる仕組みが欲しい。長期的に見れば、将来の開発に有利になるため。研究と開発の相互の行き来をフレキシブルに出来る仕組み。

資料（社会人教育に関する文献リスト）

（平尾智隆 作成）

※リストの詳細については第一章の注4を参照のこと

（著書・論文等）

- 朝倉祝治（1995）「大学院レベルのリフレッシュ教育－試行と推進に係る新しい提案」日本生涯教育学会『日本生涯教育学会年報』第16号。
- 藤墳智一（1994）「大学院における社会人再教育の可能性」片岡徳雄編『現代学校教育の社会学』福村出版。
- 舟場正富（2001）『社会人大学院夜間主コースの教育研究指導の現状と課題－実学型データ解析手法開発へのアプローチ』神戸商科大学経済研究所研究資料 No.176。
- 二見隆（1999）「ビジネススクール系社会人大学院生の実態調査に基づく現状と提言」法政大学大学院『法政大学大学院紀要』第43号。
- 原治（1985）「大学院における社会人教育」文部省高等教育局学生課編『大学と学生』第233号。
- 林宜嗣（2000）「社会人大学院はうまく機能しているか」日本私立大学連盟『大学時報』第49巻第270号。
- 伊藤文雄（1998）「高度専門職業人大学院教育の取組」文部省高等教育局学生課編『大学と学生』第403号。
- 景山貴彦（2002）『社会人大学院生入門－社会人だからこそ楽しめる』世界思想社。
- 加治佐哲也（1997）「兵庫教育大学大学院における現職教員の教育および研究の動向と課題」第一法規出版『学校経営』第42巻第10号。
- 上林憲雄（2003）「日本型ビジネススクール教育の論点と課題」神戸大学経済経営学会『国民経済雑誌』第188巻第4号。
- 川畑由美（2001）「プロ人材を目指して－充実する社会人大学院」東レ経営研究所『経営センサー』第29号。
- 古賀一博（1997）「上越教育大学大学院における現職教員の教育および研究の動向と課題」第一法規出版『学校経営』第42巻第11号。
- 倉光弘己（1998）「社会人大学院『新規事業開発コース』への一考察」神戸大学経済経営学会『国民経済雑誌』第178巻第3号。
- 町井輝久・笹井宏益（1997）「リカレント教育と大学－大学への社会人受け入れの現状と課題についての小論」北海道大学高等教育機能開発総合センター『高等教育ジャーナル』特別号。
- Morooka, Kazufusa（1976）*Recurrent Education: policy and development in OECD member countries : Japan*, OECD, Paris.
- 西田晃一（2002）「求める知と求められる知－社会人大学院生へのインタビューを通して」関西大学総合情報学部紀要『情報研究』第16号。
- Okitsu, Yuki（1996）“Adults in Japanese Higher Education,” *The Studies of The Japan Institute of Labour*, No.12, pp.112-130.
- 沖津由紀（1996）「大学院修士課程における社会人教育」日本労働研究機構『JIL リサ

ーチ』第 28 号。

- 佐野陽子 (1996) 「大学院はキャリアアップに役立つのかー社会科学の場合」石井紫郎編著『転換期の大学院教育』大学基準協会。
- 佐竹勝利 (1997) 「鳴門教育大学大学院における現職教員の教育および研究の動向と課題」第一法規出版『学校経営』第 42 巻第 8 号。
- 瀬沼克彰 (1999) 「大学再生のための生涯学習」同著『社会再生のための生涯学習ー21 世紀・生涯学習の展望』大明堂。
- 島田睦雄 (1998) 「認知のアーキテクチャー・モデルから見たホワイトカラー・ワーカーの職務と大学院教育」日本労働研究機構『日本労働研究機構紀要』No.15。
- 山田礼子 (1996) 「日本型プロフェッショナル・スクールの展開」2010 大学改革研究会『大学改革 2010 年への挑戦』PHP 研究所。
- 山田礼子 (1997) 『社会人のための大学院案内ーキャリアアップ・生涯学習・人生の再出発』PHP 研究所。
- 山田礼子 (1999) 「今後の社会人大学院ー職業型大学院の充実と発展」村田治編著『生涯学習時代における大学の戦略ーポスト生涯学習社会にむけて』ナカニシヤ出版。
- Yamada, Reiko (1999) “Structural Difference of Japanese Professional Graduate Programs and American Professional Schools,” *Higher Education and Lifelong Learning, Hokkaido University, No.5, pp.49-56.*
- 山田礼子 (2003) 「大学院改革の動向」日本教育学会誌『教育学研究』第 70 巻第 2 号。
- 山本浩二 (2003) 「社会人大学院の現状と課題」関西経営者協会『関西経協』第 57 巻第 8 号。
- 山本眞樹夫 (2002) 「小樽商科大学における社会人大学院教育ー地方文系単科大学の一事例」北海道大学高等教育機能開発総合センター『高等教育ジャーナル』第 10 号。
- 山本昌弘 (2003) 『キャリアアップの投資術ー専門職大学院でスキルを磨く』PHP 新書。
- 山代研一 (1997) 「経営実務者教育におけるリカレント教育の現代的課題」山口大学経済学会『山口経済学雑誌』第 45 巻第 4 号。
- 山内祐平・中原淳編著 (2003) 『社会人大学院へ行こう』生活人新書。
- 吉村宗隆 (1999) 「日本型経済システムと職業型大学院の課題ー日米 MBA コースの分析を中心に」羽衣学園短期大学『羽衣学園短期大学紀要』第 35 巻。
- 吉村宗隆 (1999) 「社会人大学院のカリキュラムをめぐってーMBA の成績評価を中心に」北海道教育大学函館人文学会『人文論究』第 68 号。
- 吉村宗隆 (2000) 「日本型雇用システムと MBA 教育の意義」経済学教育学会誌『経済学教育』第 19 号。
- 吉村宗隆 (2000) 「主要邦銀における MBA の位置付け」羽衣学園短期大学『羽衣学園短期大学紀要』第 36 巻。

(その他の文書、雑誌の特集等)

- 『「企業家育成システム検討委員会」報告書』神戸大学大学院経営学研究科、2000 年。
- 「特集・大学院の新たな展開」東海高等教育研究所『大学と教育』第 16 号、1996 年。

「特集 経営学の課題と大学院教育」立命館大学経営学会『立命館経営学』第41巻第6号、2003年。

「特集・高度専門職業人養成ーリカレント教育」文部科学省高等教育局学生課編『大学と学生』第466号、2003年。

「特集 リカレント教育の再考」教育と医学の会『教育と医学』第44巻第3号、1996年。

「特集 社会人大学院」産労総合研究所『企業と人材』第32巻第732号、1999年。

調査研究報告書 No.128

大学・大学院等における社会人向け訓練コース設定の推進

発行 2005年3月
発行者 職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター
所長 池本喬三
〒229 1196 相模原市橋本台4 1 1
電話 042 763 9046 (普及促進室)
印刷 電算印刷株式会社
〒390 0821 松本市筑摩1 11 30
電話 0263 25 4329

ISSN 1340-2412

調査研究報告書 No.128
2004

**THE INSTITUTE OF RESEARCH AND DEVELOPMENT
POLYTECHNIC UNIVERSITY**